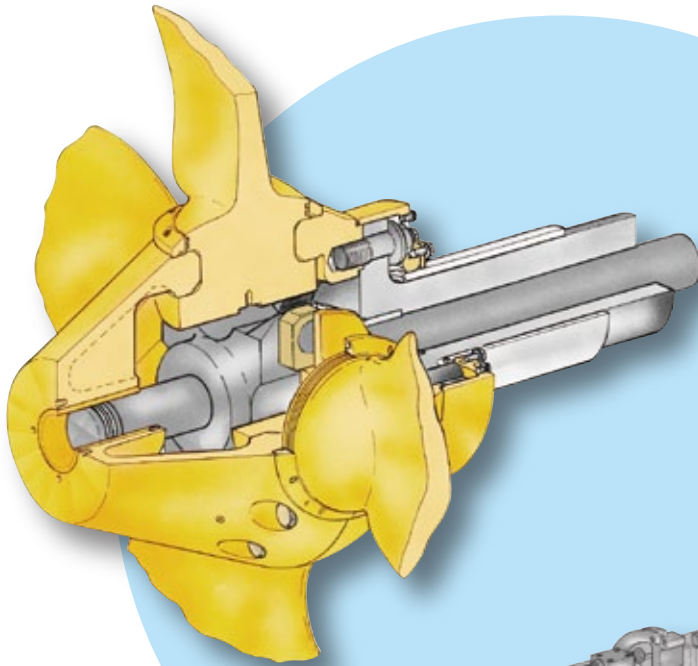
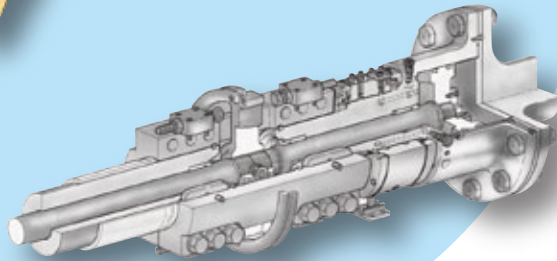


## MODEL XS



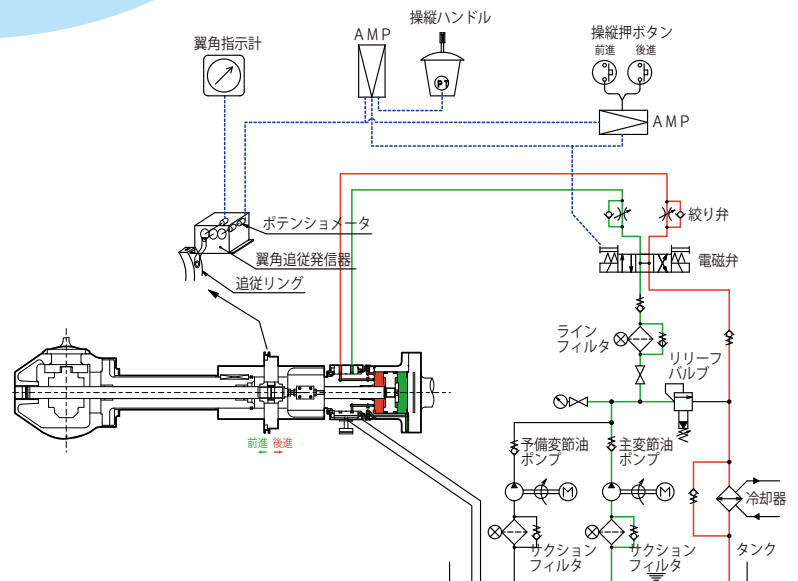
主に中小型船舶に採用され、翼角を制御する油圧シリンダが船内側の中間軸内に設けられています。油圧ユニットのポンプから出た油は電磁弁を通してシリンダ軸のODボックスへ入ります。ピッチ操縦ハンドルを動かすと信号が出力され電磁弁を通电し圧力油がODボックスからパイロットチェックバルブを通りシリンダへ入りピストンを押します。これが変節棒を介してクロスヘッドに伝わり、ブレードを変節します。構造がシンプルでメンテナンスコストが低減できます。ハブ内部はグリースによって潤滑され、ハブ内部からの油漏れがなく、環境汚染の心配もありません。



## CPP



## 回路図



## 可変ピッチプロペラ

翼角を制御することにより、前進、停止、後進が容易にこなせることから、サイドスラストとの組み合わせにより、出入港や離着岸時などの船速の変化を頻繁に行う必要がある場合に利便性があります。また、緊急停止時にも前進一杯から後進一杯まで即座に対応することができます。

翼角を調節することにより常にエンジンを最も効率の良い負荷で回転させたまま、船の速力を自由自在に調整することができるので、燃料の削減やNOxの削減が期待できます。

これらのメリットから漁船、タンカー、フェリーやタグボート等、多種多様な船舶に広く採用されており、固定ピッチプロペラのノウハウから得た独自の設計手法により、最適なピッチ分布とキャンバー分布を決定することにより、高効率のプロペラを供給できます。ブレード断面は、プロペラ表面に平坦な圧力分布が得られやすい形状を採用し、キャビテーション性能の向上を図るとともに高効率を達成しています。